

平成29年度 2年目教育スケジュール

		到達目標	必須研修		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
卒後2年目	<p>1) 必要時に助言を受けながら、患者に安全な看護サービスが提供できる。</p> <p>2) 受け持ち看護師として、看護問題が明確にでき看護過程が展開できる</p> <p>3) 部署内、患者、家族との良い人間関係を築くことができ、チームメンバーとしての役割を果たすことができる</p>	<p>・フォローアップ研修①②③</p> <p>・メンバーシップ研修</p> <p>・看護理論研修</p> <p>・ケースレポート発表</p> <p>・医療安全研修</p> <p>・退院支援研修</p> <p>・救急看護またはフィジカルアセスメント</p> <p>・接遇研修</p> <p>・訪問看護同行研修</p>	院内	研修名		1. フォローアップ研修① 5/12(金) 14:00~15:00	2. メンバーシップ研修 6/12(月) 14:00~15:00	3. 退院支援研修 卒後3年目合同 7/10(月) 14:00~15:00	4. 医療安全研修 8/7(月) 14:00~15:00	5. 看護理論研修 8/26(土) 9:00~12:00	6. 救急看護 (ICLS含む) 研修 またはフィジカルアセスメント研修 ※	7. 接遇研修 ※	8. フォローアップ研修② 10/16 (月) 14:00~15:00	9. 看護倫理研修 (高齢者と認知症ケアを含む) 1年目の看護職員と合同研修 11/11(土) 9:00~15:00 卒後1年目と合同	10. 訪問看護同行研修 ※ (2年目または3年目で1回実施)	11. ケースレポート発表 12. フォローアップ研修③ 2/3(土) 9:00~12:00											
				ねらい	1-1. 現状での悩みを共有し、問題解決を図る	1-2. 自己課題が明らかになる	1-3. ポートフォリオによる目標設定ができる	2-1. チームのメンバーとして自分の役割を理解できる。	2-2. メンバーシップを発揮するために必要なことがわかる	3. 退院支援に必要な基礎的知識を学ぶ	4-1. 5Sを学びリスク感性を高めることができる	4-2. 自部署の5Sのチェックを通して、課題がわかる	5-1. 自己の実践した看護を看護理論と結びつけて考えることができる	5-2. ケースレポートの書き方を学ぶ	6-1. 救急時の対応を学ぶ	6-2. 心肺停止状態の対応がわかる	7-1. 医療者に必要な接遇について学ぶ	8-1. 現状での悩みを共有し、問題解決を図る	8-2. 自己課題が明らかになる	8-3. ポートフォリオによる目標設定ができる	9-1. 看護に必要な倫理的視点が分かる	9-2. 身近な事例を通して倫理的な視点と態度を学ぶ	10-1. 訪問看護師と同行訪問ができる	10-2. 在宅での介護の環境を知る	11-1. 自らが実践した看護を理論と結びつけて振り返り、看護観を深める	11-2. 形式に沿って論文作成ができる、は発表をすることが出来る。	12. 2年目に向けた自己目標を設定できる
				講師	研修担当	研修担当 副師長1名	地域連携室	4. 医療安全管理者 インストラクター 研修担当1名 第2会議室	5. 外部講師/島根大学 研修担当1名 副師長・委員長 第1会議室	研修担当	松江市立病院 老人専門看護師 吉岡佐知子 研修担当1名 副師長 委員長	研修担当2名	第2会議室	第1会議室	第1会議室												
				自分で計画的に取り組む研修	<p>院内外で参加するよう計画する研修 : ①救急看護(ICLS)またはフィジカルアセスメント ②接遇研修 ③退院支援: 可能であれば退院支援の研修後、退院支援に関わった患者を訪問看護師に同行訪問する</p> <p>オンデマンド研修 最低でも3つは視聴すること。院外研修を最低でも1つ参加を目標とする。</p>																						

自ら計画して取り組む研修: 救急看護 (ICLS) 又はフィジカルアセスメント研修・接遇研修)

訪問看護同行研修(退院支援研修を事前に受けていることが望ましい)。但し3年目にも実施しても良い。

院内外で参加するよう計画する研修 : ①救急看護(ICLS)またはフィジカルアセスメント ②接遇研修 ③退院支援: 可能であれば退院支援の研修後、退院支援に関わった患者を訪問看護師に同行訪問する

オンデマンド研修 最低でも3つは視聴すること。院外研修を最低でも1つ参加を目標とする。